

予報期間 10月16日から10月22日まで

◆今期間のポイント

＜主要しょう乱の概要＞

- 18日は、高気圧が日本の東へ移動する。低気圧が発達しながら北日本付近へ進む。
- 19日は、低気圧がオホーツク海へ進み、前線が日本付近を通過する。
- 20日は、低気圧がカムチャツカの東へ進み、大陸の高気圧が日本海へ張り出す。
- 21日から22日は、大陸の高気圧が北日本付近へ張り出し、前線が日本の東から日本の南へのびる。

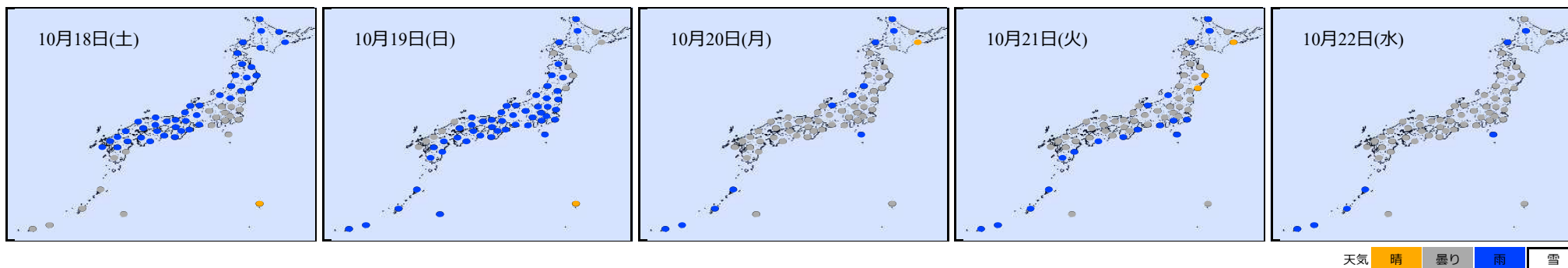
＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 18日から19日頃は、北日本では、発達する低気圧の影響で荒れた天気となり、低気圧の発達によっては大荒れや大しけとなるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

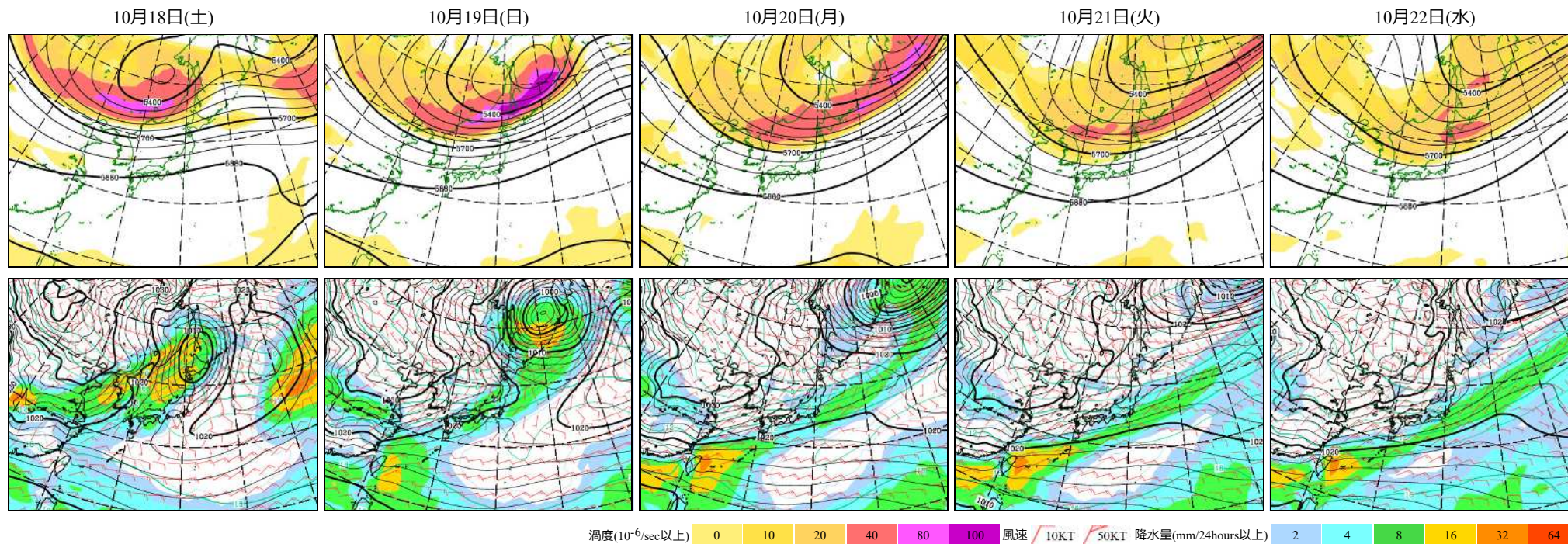
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

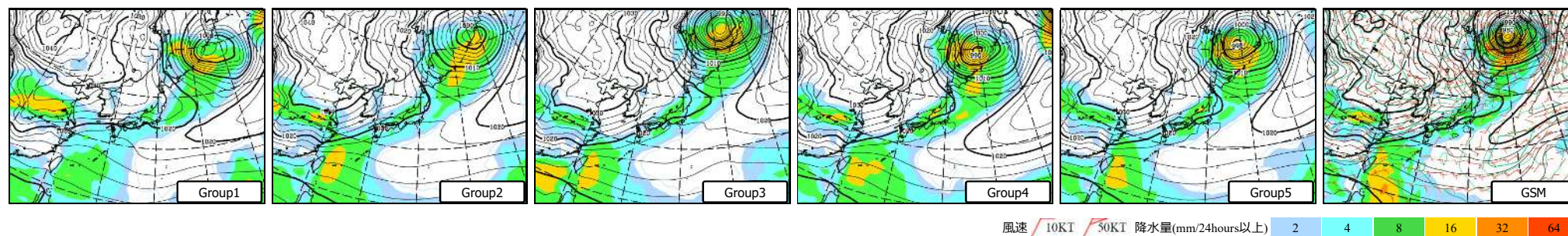


- 北日本は、曇りや雨または雪の降る日が多いが、太平洋側では晴れる所がある。
- 東日本と西日本、沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆10月19日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、19日はオホーツク海の寒冷渦が北寄りとなり、北日本の気圧傾度がやや緩くなった。降水確率ガイダンスの初期値変わりは小さい。
- 各モデルとも、18日から19日は低気圧が発達しながら日本海からオホーツク海へ進む予想だが、東進の早さや発達の程度にはモデル間の差がみられる。
- スプレッドは比較的小さく、各特定高度線のバラつきも小さい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。

今日から明日日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。